



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(6)

【概要】

令和3年11月19日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と工学系研究科及び先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らが本年度最後の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行っています。

令和3年度第6回は令和3年11月19日(金)に、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、工学系研究科システム創成科学専攻及び先進健康科学研究科先進健康科学専攻(理工系)の大学院生が、「くるくる変わるカメレオン溶液!!」と題して実験を行いました。

最初に、今年度最後の理科実験教室ということで、教育支援センターの計らいで実験前に参加者全員の記念写真を撮っていただきました。実験では、振ると色が変わる液体や振動反応として知られる周期的に色が変化していく溶液反応を子ども達に行ってもらいました。振ると色が変わる液体では、何度も繰り返し行くと微妙に色調が変化していく様子を子ども達が報告してくれたことで、観察の大事さを伝える良い機会となりました。また振動反応では心拍、睡眠、生理と関連づけて体内で周期的に起こる現象について考えてもらいました。

今年行って楽しかった実験を来年もう一度して欲しいという児童もおり、子ども達が理科への興味をもってくれたことは大変嬉しく思います。6年間ボランティアとして参加して本年度修了を迎える博士後期課程の大学院生は子ども達の反応に感慨深かったようでした。



「理科実験教室」の様子